



2022年5月22日主日連合礼拝

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【教会の存在目的と使命】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書本文: マタイの福音書28章18-20節・コリント人への手紙第一9章19-23節 (Rev. Jung nam-chul)

<1. 聖書の変化と回復を目指して>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！先週一週間も主の平安の中で心も、体も守れましたか。22年度、クリスチャンプレイズチャーチの「変化と回復」です。2019年以来、中国湖北省武漢市から始まった新型コロナウイルス（WHOでは2020年2月11日:Corona Virus Disease2019(COVID-19)公式ウイルス名を名付ける）が発病して以来、短期間で急速に全世界に広がり、3ヵ月後、2020年3月11日、WHO（世界保健機関;World Health Organization）では、コロナウイルスの「パンデミック(世界大流行)」の宣言以後、今年で3年目となっていますが、まだ完全に終息されないまま続いています。まだまだコロナ感染の不安もあり、みんなが感染に対する不安やストレス、心身のお疲れも覚えて来ました。

もちろん、また新たな変異株が流行る可能性もありますが、しかし、反面世界的には3回目の予防接種が進み、集団免疫が出来るようになり、徐々にコロナの変異株の重症化率が低くなっている中、それぞれポストコロナ時代の準備と回復を模索しつつ、目指しているのも事実であります。真っ暗の真夜中がいつまで続くのか人が思っても、必ず夜が明け、暁(あかつき)が訪れるように、寒かった真冬がいつまで続くのか分からなくても、時になれば、その時が過ぎて、また暖かな春が訪れ、凍っていた自然万物が芽を出し、花は咲き、生き返られるように、我らの環境もまたコロナ禍の中色々新しい変化とともに、コロナ以前に回復されて来ることもあるでしょう。

私はこのコロナ禍を通して、生きておられる神の御前で我らの信仰が試され、点検される時となり、各自信仰の土台と状態が明らかにされたと思われます。平穏な時ではあまり気付いてなかったところや見逃していた神様との関係の中色々な信仰の部分が、人生の苦難や試練が訪れた時こそ、ようやく気づかされ、今の自分と神様との関係の状況が把握され、自身の信仰の弱さと足りなさ、もっと成長や成熟すべき課題も見えて来るでしょう。

わたくしは、このコロナ禍を許して下った神の御旨を完全に測り知ることが出来ませんが、一つだけ確実に知っていることがあります！決して全てが神の災いとして、我らを裁き滅ぼすためではなく、むしろ、我らのためであるということです。つまり、我らの変化と真の回復の為ではないかとそう信じております。今まで忙しすぎて、色々なところに心を捕らわれて来た我ら一人ひとりが、神に立ち返り、神様との関係を新たに立て直すことこそ、本来の神様が望んでおられ、祝福を約束された通りの信仰と生き方へ回復されるいくために、この逆境の時をも許して下ったのではないかと聖書を通して理解し、受け止めております。

今のコロナ時代と比べられないほど、混雑と不安、恐れる時代だった紀元前8世紀、BC755年～720年ごろまでの北イスラエルで、神様は預言者ホセアを立てて下さいました。そして、最後の最後まで、北イスラエルの民が神の御言葉の約束を信じ従って、神に立ち返り、彼らが変われば、必ず、彼らをアッシリア帝国の悲惨な攻撃から守り、完全に、豊かに回復させて下さるという約束し、保証の御言葉が、今年の教会の標題「変化と回復」の御言葉となる、ホセア書6章1節～3節の御言葉です。

「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んで下さるからだ。2主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。私たちは知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。主は暁のように確かに現れ、大雨のように私たちのところに来られる。地を潤す、後の雨のように。」

ここで2節に、**「主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。」**

この御言葉の意味は、即刻(そっこく)に、迅速(じんそく)に神の赦しと癒し、回復への約束される内容です。

3節を後半見ると**「私たちは知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。主は暁のように現れ、大雨のように私たちのところに来られる地を潤す、後の雨のように。」**この箇所の意味は、主に立ち返り、今の自身が新しく変わることを望み者たちに、主も必ず来られ、その者たちに、毎年、地を潤す雨を降らせて下さる神は、神に立ち返る全ての者たちに、かならず具体的に助け、潤うさせ、必要を豊かに満たして下さるという御約束の御言葉です。つまり、本来の神に喜ばれ、望んでおられる人生として回復させて下さるという意味であるでしょう。

願わくは、この御言葉の約束を信じて、今年中クリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族お一人お一人が生きておられ、全能なる神の御前で、あらゆる面において、新たに変わり、回復される祝福の一年となりますように、もう一度心からお祈り申し上げます！

ところが、残念ながら、神の預言者ホセアを通して、与えて下さった変化と回復へのメッセージを信じず、従わなかった結果、紀元前722年に北イスラエルは、アッシリア帝国によって首都サマリアが完全に陥落され、滅ぼされ、奴隷として連れられる悲惨な結果を招いてしまいます。

ここで、一つ大切に忘れてはいけぬ教訓があります。罪ある人間は、なかなか変わろうとしないことが分かります！

神は、御言葉を通して、いつも罪ある我らの今の状態と姿を映させ、悟らせて、神が喜ばれる姿に変わって生けるように導き、回復させようとはしますが、反面、私含めて、罪の本性のあるすべての人間は、心が頑なで、なかなか神の御言葉に従おうとせず、自身を変えようとするのを断ります。また、自身には一切変わる必要もなく、何の問題もないけど、周りの人々ばかりが変わらなければならないと、他の人に当てはまる御言葉だと偏って考え込んでいる傾向があります。

ローマ人への手紙12章2節に、「この世と調子(ちょうし)を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自身を変えて頂きなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」(Do not conform any longer to the pattern of this world, but be transformed by the renewing of your mind. Then you will be able to test and approve what God's will is--his good, pleasing and perfect will.)

旧約のイスラエルの民たちのように、我らも、パターン化しやすい者です。パターンを作れば、パターン化になれば、とてもやりやすくなり、便利になって来ますが、いつの間にかその形やパターンだけがいつのまにか、絶対化に固執せず、捕らわれないように、我らの信仰の姿勢と生き方が、マンネリ化にならないように気をつけましょう。だれがあの人、この人が願っている自身の変化では決してなく、(それは一生満足させることも、満たすこともできないので)、**徹底的に神の御言葉に基づいて、神の御言葉通り、神の御言葉を通しての自身を点検し、変えて行こうとしなければなりません。**

愛する信仰の家族のみなさん!クリスチャンプレイズチャーチの今年度の標題は神により、「**変化・回復**」(共に信仰の回復・聖書的な価値観の回復・キリスト者としての生き方と関係の回復)を共に求め、目指す一年となることを祈っています。2017年6月から、尊い魂の救いとイエスキリストの弟子を育み、生み出す為に、聖書の初代教会にあった家の教会の姿を目指し、その「家の教会」を「牧場」と名付け、**3牧場(3組牧者)と予備牧者1組**で始めました。教会にとっては、教会の家族にとって、大きな変化でしたが、我らの教会は、もっと神の御言葉に書いてある初代教会に近づけるように、もっと聖書が教えて下さる、イエスキリストご自身が望んでおられた教会の姿に変わって行くために、変化でした。

もう今年6月で、5年目を迎えることとなります!現在4牧場(4組牧者)と2組予備牧者います。**何よりも、今まで5年間毎週牧場で、献身的に愛の労苦を惜しまなかった牧者、予備牧者ご夫妻と方々に心から感謝を申し上げます!また、今まで牧者たちと共に心一つにし、愛の協力を惜しまなかった牧場家族のみなさんにも心から感謝致します!**5年間牧場を通して、15人の尊い人生が受洗に導かれ、救われました。信仰の継承の大切さを覚え、アワナが導入されてから、毎週25人~30人の幼稚部~高校生たちが集まり、**今までのアワナの先生方々の愛の献身にも心から感謝しております!**5年前、神の御言葉に従った家の教会(牧場)という新しい変化が、その前に体験出来なかった神の多くの恵みと愛の実をもたらし、結ばせて頂きました!本当に感謝!感謝!です。もし、今でも、家の教会の姿より、もっと聖書でより良い教会の姿があれば、我らは、いくらでも従う姿勢が必要ではありませんか。どうか愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰家族のみなさん、今の出来た形で固着(こちゃく)せずに、安住しないで、今年中我らの家の教会(牧場)も、共に本来の家の教会の目的と姿に徐々に変化し、益々本来の家の教会の姿に回復されて行くようにともに祈りつつ、取り組んで行こうではありませんか。**牧場だけではなく、アワナ、教育、伝道の方法など、絶えず、神の御言葉に基づき、隣人への愛の動機(どうき)によって、尊い一人の魂の救いのために新しくなって共に仕えて行きたいと願っております。**

今日の本文で、使徒パウロは、こう証しています。「**19私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。20ユダヤ人にはユダヤ人のようになり、ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには一私自身は律法の下にはいませんが一律法の下にある者のようになり、律法の下にある人たちを獲得するためです。21律法を持たない人たちには一私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、一律法を持たない者のようになり、律法を持たない人たちを獲得するためです。22弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。23私は福音のためにあらゆることをしています。**」

聖書の御言葉の約束通り、変わり、回復されて行くために、聖書で何と教えているのか、いつも御言葉の原点に返らなければならないので、聖書が教えているキリストの体なる教会の存在の目的と使命についても一度共に学ぶ、さらに主が望んでおられ、喜ばれ、祝福される我らの教会となるように祈って行きたいと願っております。

<2. 教会の存在目的と使命>

愛するみなさん!教会を毎週通いながらも、教会は何のため存在していて、存在すべきなのか、その存在目的や教会の真の使命は何のかについてはっきり認識を持って、言えるでしょうか。

教会で起きている大体の葛藤や意見などの衝突の原因を分析して見ると、教会が担うべき大切なことが何であるかに対する意見の違いが根本的にあることが分かります。たとえば、礼拝とか賛美とか祈りが一番大切だと思っている方々や、兄弟姉妹の交わりが一番大切であると思っている方々もいれば、聖書学びが一番大切だと思っている人々の信仰のスタイルが違うには同然かも知れません。礼拝とか賛美とか祈りが一番だと思っている人は聖書学びを一番に思っている人々に対して、信仰を知的な満足のために利用しているように思うかもしれません。交わりを大切にしている人々には、教会が人とおしゃべりするところかよと不満を持っている方もいるかも知れません。反対に聖書学びを一番に思っている人は礼拝、祈り、賛美とかを一番に思っている人々が信仰の内容はなく信仰の形だけ大切にしているのだと思うかも知れません。

しかし、我々みながかならず覚えなければならないことは、**教会の存在の理由と目的、そして、何を一番の大切にすべきなのかその使命を決めるのは、決して我々人ではないという事です!**それに対して、すでにイエスキリストご自身が教えてくださったからです。その内容が今日の本文の有名な**マタイの福音書28章18-20節の箇所**です。もう一度読んでみましょう。この御言葉こそ、**教会の存在目的**だと私は思います。

イエス様が特別に訓練された11人の弟子を使徒と呼びますが、使徒という意味は“遣わされた人たち”という意味です。ここで使徒の単語は複数の言葉です。単数の時は‘ししん(使臣)’、もしくはししゃ(使者)‘と言います。彼らの働きはどこに行くにしても福音を伝え、そこで教会を建て、イエス様が命じられた御言葉に従い、献身するイエスキリストの弟子たちを生み出し、育む働きをしました。ですから、これがまさに教会を立たせてくださった存在目的だと思うのです。

今日の本文19-20節では**四つの動詞**が。「行って」、「(弟子)としなさい」、「(バプテスマを)授け」、「(彼らを)教えなさい」が出てい

ですが、ギリシャ語の原語の聖書では四つの動詞の中で命令形は‘弟子としなさい’この一つだけで、ほかは分詞(ぶんし)です。つまり、‘あなたがたは(行って／バプテスマを授けて／教えて)わたしの弟子を作りなさい’という命令です。この御言葉の意味はつまり、教会の存在目的は、イエス様の弟子を作る事だと言う意味です。イエス様が望んでおられる教会の姿は、イエス様の弟子を生み出し、育む教会の姿だったことが分かります。もちろん、キリストの弟子となるためには、まず、人が、イエスキリストを信じて、神の救いを受けなければならないため、結局教会の存在目的と使命は、くたましいの救いとイエスキリストの弟子を生み出すことにあることが分かります。

どんなにたくさんの奉仕や長い礼拝生活、宣教と伝道を熱心にやるにしても、教会の中でイエスキリストの弟子のような人々が生み出さなければ、教会はその存在目的を失ってしまうのです。

愛する信仰の家族のみなさん! 弟子とはどんな人ですか? 弟子は学ぶ人です。弟子になるためにはまず学ぶものであり、学んで身につけたものはまたかならず、ほかの人にも受け継がせるものであります。何を学び、何を受け継がせるのですか?イエス様の品性と生き方です。イエス様の人格を似て、その方の生き方を見本にして、イエス様に似ていくその人と言います。これがまさにイエス様の弟子になっていく事です。時間が経ちながら、イエス様に似ていく人、イエス様のように生きる人が増えていく時、その教会は教会の存在目的の通りに生きているのだと言えるでしょう。

それでは、今日の聖書本文で、イエス様は弟子を生み出していく教会になる具体的方法を教えてくださいました。弟子を生み出す教会となるためにはまず、行かなければなりません。ところが、普段、教会や教会のクリスチャンたちはだれか、あの教会の門をあけて、人々が教会に来る事を待っています。神様を知らない人、神様を信じない人々、そして神の愛と助けが必要とされる人々をのために、私たちの方から行く事が、伝道の一步です。5年もしくは、7年間ほど教会に通うと、未信者の友たちがほぼいなくなるという統計を読んだことがあります。これは本当に悲しい事です。我々は行かなければなりません。まだ真の神を、神の赦しを、救いを、イエスキリストの福音を知らない人々に、信じてない友達を覚えてその友のために行かなければなりません。

その次は「バプテスマを授けなさい」と言われました。未信者の友達とどんなに親しくてもそれで終わってしまうと、何の意味もありません。彼らにイエスキリストを紹介し、証しをし、分かち合い、彼らがイエスキリストを自ら信じて、バプテスマを受けるように。実は、何の問題もなさそうに見える人々も、実は罪の罪責感の呵責で苦しんでいる人々、様々な問題に抱えて悩んでいる人々、人生の寂しさや孤独感の中いる人々、人生をむなしく生きている人々がたくさんいます。我々はその方々にイエス様を紹介する愛の責任と使命が教会にあるのです。イエスキリストだけが人間の罪の問題を、死の問題を、人生の寂しさや虚しさの問題、心の深い傷を悩んでいる魂に、神の平安と安らぎを、またまことの赦しと回復、救いを与えてくださるからです!

バプテスマを授けた後はイエスキリストが教えて下さった神のすべての御言葉を「守るように教えなさい」と命じられました。知識的な聖書学びではなく、イエス様を信じて、古い自分の以前の価値観が変わって、イエス様の似姿に変えられる弟子となれるような聖書の学びをしなければなりません。イエス様の似姿に変えられるようにと教える聖書学びを持続的にしなければなりません。多くの教会は組織も良く出来ていて、良いプログラムもたくさんあって忙しく回っているのに、いざイエス様の弟子たちは生み出されない難しさをよく聞きます。それは聖書でイエス様が教えて下さったキリストの弟子を作る方法論にだけ偏ってしまう時が多いからではないでしょうか。すなわち、実際イエス様が弟子達に教室でなく、現場で、知識的な学びではなく、実際イエスキリストの行いと生き様そのままを見せながら、自然に学ばされ、訓練されて行ったように、我々も行き方や実際の行いを見せて、それを見て学ばされ、さらに御言葉を親しんで従う祝福と喜びを教えなければなりません。(鄭牧師もまだまだですが、イエスキリストが我らを愛し、救う為に、愛の残るところなく、すべての愛を注いで下さったように、私のいつか、教会の家族のみなさんに、鄭牧師は本当のイエス様の弟子であって、鄭先生の姿を通して、イエスキリストをよく学びました。と聞ける者になりたいと願っております。)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん! イエス様は信じる我々に与えられている使命は何ですか。「(イエスキリスト)わたしの弟子としなさいという使命」です。我々は主の教会の存在目的をたしかに分かってその目的に向かって一緒に行くではありませんか。我々がイエス様の弟子となってイエス様に似ていく事をどうやって分かりますか。

それを分かる方法は簡単です。自分たちの生活において回復と愛の御業が起きているのかを見れば分かります。我々は大抵たい心に深い傷と寂しさを感じて生きています。しかし我々は自分の傷に集中している間は治療ができません。傷つけられた心を他の人に吐き出したり、もしくは神様に祈れば、すこしはずっきりされます。しかし、完全な癒しにはなりません。イエス様に似ていく時、ようやくその傷は癒され回復されていくのです。

イエス様の生き方を見ると、イエス様の人格の中で一番目立ったのは愛の仕えと赦しです。罪のない方が捕まえられて十字架で死なれていくときイエス様はなんと言われましたか?“わたしの敵に仕返して下さい。”と言われませんでした。ルカの福音書23章34節をみると、“父よ。彼らを御赦しください。彼らは自分たちが何をしているのかわかりません”これがまさにイエス様の姿でした。イエス様のように赦す人になっていく時、イエス様のように愛をもって仕える者になるとき、いつの間にか自分の中で癒しと回復の御業が起こります。そしてその姿を見て救われるべき人は変わり始めます。教会は病院でなければなりません。神様の御前で罪人である我々が罪赦され、癒しと回復の変化を経験し、神様の救いを受けた人々が、イエスキリストの弟子として歩んで行く経験していくところ、主の教会なるクリスチャンプレイズチャーチとなりますよう主の御名によって祝福します。

<3. イエス様が本来望んでおられた本来の教会の姿: 家族共同体>

それでは、主イエスキリストを信じる人々が集まる教会共同体に対して、イエス様はどのように望んでいらっしゃったのでしょうか。一言でいうと「信仰と愛の家族共同体」でした。(マタイの福音書12章49-50節)

「それから、イエスは弟子たちのほうに伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。50だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

*使徒の働き2章46-47節「そして毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を仲間に加えて一つにしてください。」

初代の教会の姿は家の教会の姿あり、生活を共に共有することが出来るほど、まさに神の家族の共同体の姿でした。

*ローマにある教会(ローマ人への手紙16章3-5節)

「キリスト・イエスにあって私の同労者であるプリスカとアキラによろしく伝えてください。5また彼らの家の教会によろしく伝えてください。」

*ラオディキアにある教会(コロサイ人への手紙4章15節)

「どうか、ラオディキアの兄弟たちに、またニンバと彼女の家にいる教会に、よろしく伝えてください。」

*ピレモンの家の教会(ピレモンへの手紙1章2節)

「姉妹アツピア、私たちの戦友アルキボ、ならびにあなたの家にある教会へ。」

このように聖書に書かれていたエルサレムにも、ローマにも、ラオディキアにも、ピレモンにも家の教会を通して、まさに言葉だけではなく、本当の信仰の家族、神の愛の家族共同体となっていたことが分かります。パウロが設立した諸教会の中で新約聖書に最も詳細に紹介されている教会はコリント教会も、コリント教会を中心として家の教会の姿であった事が分かります。実はアキラとプリスカという夫婦の家がコリントの初めの家の教会でした！エペソでも家で信仰と愛の家族共同体として家の教会の集いを持っていました(使徒の働き18:18-19)。コリントだけでもガイオの家(ローマ16:2:コリント第一1:14)、また会堂管理者クリスポの家(使徒の働き18:8:コリント第一1:14)、ステファナの家(1コリント1:16; 16:15-16)、そしてエラストの家(ローマ16:23)にも家の教会で集っていたはずで

そして、ローマ書16章の長い挨拶目録を見ると、きっとローマに多くの家の教会が存在したことが分かります。プリスカとアキラの家で集う家の教会(ローマ16:3、5)、アシナクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、および彼らとともにいっしょにいる兄弟たちの教会(ローマ16:14)、そして、フィロロゴとユリア、ネレウスとその姉妹、オルンパ、および彼らとともにいる神の家族として共に集まっていた家の教会など多く存在していました(ローマ16:15)。聖書を研究しながら一つ一つの都市で数多くの家族共同体として家の教会が存在したなら、諸教会は互いに愛を持って献身的に支え合い、仕え合っていたことが分かりました。まとめると、

(1)イエス様が望んでおられた教会共同体は家族共同体でした。(マタイ12:49-50)

(2)エルサレム教会が家の教会として形成されていました。(使徒2:46-47)

(3)使徒パウロも教会員が神の家族としての関係であることを望んでいました。(第一テモテ5:1-2)

しかし、ながら、教会の歴史によると、本来主が望んでおられた教会の姿でだった家の教会姿を持って4世紀まで祝福され、続いていた信仰の家族共同体が変質されたのは、ところがローマのコンスタンティヌス皇帝によってキリスト教が公認(AD313年)された以後に、バシリカ(basilica)という長方形の巨大な教会堂が建てられるようになってから、家の教会、神の家族共同体の姿はほとんど跡をくらましてしまいます。「バシリカ」という教会建物の登場は色んな側面で教会に対する理解(教会の建物が神聖な教会かのように思い始める)とキリスト者の生き方に深刻な質的変化をもたらしてしまったわけであり

大型教会の中で本来の教会の家族共同体性と愛の交わりと関係が失われ、大多数の聖徒たちが礼拝の受動的な観覧者として転落してしまい、礼拝も儀式的になってしまいました。その結果、礼拝と生き方が分離になってしまいました。信徒が持っている賜物を生かせず、全て一人の教職者に頼りすぎてしまいました。大人数が集っている教会こそ、神様が喜ばれ、素晴らしい教会かのように本来の家族共同体を望んでおられたイエスキリストの御心から外れてしまい今日に至っているのではありませんか。

しかし、残念ながら、聖書の御言葉に書いてあるのにも関わらず、聖書が教えている、イエスキリストが望んでおられる教会の姿に立ち返ることより、みんなが4世紀のバシリカのような大型教会にまだ考えが固着されて、そればかり目指しているような気がします。実は我らも以前このような考え方を持っていたのではないのでしょうか。大きな教会の建物、大勢の人がいるか、少ないかによってそれが本当の教会かのように判断してしまった教会観だったのではないのでしょうか。

しかし、本来聖書を通してイエスキリストが御体として望んでおられた教会の姿は、神を信じる信仰とその愛を持ってともに分かち合い、仕え合う家族共同体の姿でした。結局のところ、我らの教会の姿、家の教会が目指している姿は、聖書を通してイエスキリストが望んでおられた本来の教会の姿、そして、初代の教会の姿が「信仰と愛の家族共同体」でした。そのため、我らの教会では家の教会(牧場)を5年前からはじめ、今日に至っています。我らの家の教会では牧者と共に、神の家族が家々で共に、姿勢(愛の仕え)、関心(牧員家族・他人中心)、献身(魂の救いのとイエスの弟子となるため)、愛の交わりと仕え合う関係(家族のように深い信頼と助け合い・分かち合いが出来る)があり、神の愛を共に体験されながら、癒やされ回復されて行きます。そして、一時的ではなく、毎週持続的な家の教会牧場の集いの中で祈りの答えを通して、周りの人々にもその神の恵みと力を実際体験させながら、その尊い魂がキリストを信じ、救われる神の御業を共に体験出来る事ようになります。

どうか心から愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の大家族がこれからも初代教会であったように、家の教会牧場に共に参加し、神の家族として、互いに励まし合い、慰め合い、仕え合いながら、生きておられる神の愛と力を実際、そして豊かに体験していく神の家族共同体として守られ、進んで行きますように主イエスキリストの御名によって切にお祈り申し上げます。アーメン!